

New

# 乳業連合

〈全国乳業協同組合連合会〉

令和6年1月15日発行

**NO.121**



■ごあいさつ／会長 長谷川 敏 .....	2
■ごあいさつ／農林水産省牛乳乳製品課長 須永 新平 .....	4
■「第194回理事会」開催の概要 .....	6
■『2023年度研修・総懇談会』の開催概要 .....	8
■「第2回次世代セミナー」開催概要 .....	13
■21ミルク未来の会「第23回通常総会」開催概要 .....	17
■21ミルク未来の会「現地研修」概要 .....	18
■2024年1月以降の全国乳業協同組合連合会 「会議等」開催予定 .....	19
■奥 付 .....	19
■広告(日本テトラパック株式会社) .....	表紙(4)

# ごあいさつ

全国乳業協同組合連合会  
会長 長谷川 敏



明けましておめでとうございます。

2024年（令和6年）の年頭にあたり、一言新春のご挨拶を申し上げます。

我が国は、4年間猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の5類変更後、社会・企業・個人のあらゆる側面で人々の動きが以前の活発さを取り戻すことが可能になり、いたる所で明るい話題やイベントが駆け巡り、私たちは生活の安堵感に浸ることができるようになった昨年でした。

しかしながら世界に目を転じてみますと、勃発からまもなく2年となるロシアのウクライナ侵攻は戦局が硬直化する中、昨年10月には中東のイスラエルとハマスの武力紛争が発生し、毎日痛ましいニュース映像が流れています。

一方、世界では地球温暖化との相関が指摘される自然災害の続発や食糧難・経済格差の進展等々、国連憲章で謳われているSDGs（持続可能な開発目標）が指し示す様々な課題にどう対処していくのか、今まさにその覚悟が全人類に問われていると言っても過言ではないと思います。

また、足元の世界経済は根底から揺さぶられ、各国の成長率や物価上昇率に大きな変動を与えています。特に、エネルギーや飼料を輸入に頼らざるを得ない我が国は、40年振りと言われる食料品や日用品の高騰により生活者の暮らしぶりに深刻な影響が出ています。

このような中、我が国の酪農乳業界においても、過去経験したことのない課題に直面しています。

近年、官民一体となって取り組んできた過剰乳製品対策には一定の効果が表れてきたとみる向きもありますが、在庫水準はまだ適正とは言い難い水準であり、中でも脱脂粉乳については今年度も過剰基調が続くとされています。

そうした中、生乳生産においては入口対策としてその抑制策が長期化し、酪農経営に大きなダメージを与えています。

更には、飼料・燃料・肥料資材など様々なコスト急騰を受けて、飲用乳価は昨年も一昨年に続いてキロ10円値上げされました。2年連続で合計20円値上げという業界初めでの大幅な乳価改定、しかも期中改定というこれも初めての形となりました。

そもそも、全国的には生乳需給緩和の下での牛乳乳製品価格の値上げという、これまた、過去の常識を覆す形になった次第です。

その結果、牛乳の販売単価は1リットル220～230円となった反面、販売量（消費量）は前年比5%程度の減少となりました。加えて、低価格帯の店舗や商品に消費が流れる傾向も顕著になっています。（Jミルク資料）

長年のデフレ経済の下、賃金の上昇も先進国で最低のレベルといわれる中、政府は躍起となって賃上げを叫びますが、その効果は地域企業には未だ及んでおらず、生活必需品である牛乳乳製品のこれからの消費動向、ひいては過剰乳製品の在庫水準がどのように変化するのか、予断は許せません。

## 「年頭メッセージ」----- 会員・組合員の総力をあげて取り組む決意と挑み

そうした厳しい環境の中で、私ども地域乳業者はいくつかの課題を抱えています。

当連合会の最重要事業である学校給食用牛乳供給事業（学乳）においては、前述の乳価期中改定を受けて各地で供給価格への転嫁に取り組みましたが、大方の地域では、業界の窮状には関係者の大筋の理解は得られるものの、期中での価格改定に対する賛同は残念ながら得られませんでした。その実態は一昨年・昨年と2年とも同様でした。

新型コロナウイルス感染症対応の地方創成臨時交付金を活用することも推奨されましたが、交付金の性格上その採択権は自治体（市町村）にあり、都道府県単位で一体的に扱われる学乳制度の仕組み上、全ての自治体の同意が必要であり、期中における学乳値上げに対応する実効性は殆どありませんでした。

学乳事業のサプライヤーを自負する地域乳業者にとって、こうしたいわば制度の落とし穴を今後どう埋めて行くのか、大きな課題が露呈したといえます。

やはり、年度契約を基本とした学乳に対する乳価の価格改定は、理解が得られやすい期首（4月）改定に統一することも、酪農乳業界として検討する段階ではないでしょうか。

また、減少傾向にある国の学乳予算は、長い歴史の中でその運用方法が検討されてきましたが、現在はその殆どが輸送費の掛かり増し経費に充当する形となり、金額の算定方法も様々な経緯を経て現行方式に落ち着いています。

学乳制度に基づく補助金は、1本の牛乳に換算すれば少額との評価があるかもしれませんが、保護者負担の軽減に繋がるばかりでなく、酪振法や学校給食法等に定義された現在の制度を堅持するために必要不可欠な役割を果たしていることを忘れてはなりません。

結果、その事業を通じて、我が国の牛乳生産の約1割強が学乳に仕向けられ、牛乳の消費を下支えしているという現実が生まれ、かつ、国民の牛乳飲用習慣形成に貢献してきた事実は疑う余地がありません。現下のような生乳の需給緩和下ではなおさら不可欠な存在といえます。このようにわが国の酪農乳業にとって大きな意義のある基盤を形成している学乳制度は、ある意味で費用対効果が抜群の事業と言えるのではないのでしょうか。

加えて、社会的にも経済格差が広がり子どもの貧困が叫ばれる今日、全国津々浦々で子どもたちが毎日1本の牛乳が飲める今の制度の重要性は大きいと考えます。

一部には給食無償化や選択制の議論も散見されますが、私たちは今まで培ってきたことを踏まえて、諸々の課題解決に邁進したいと思っています。

地域乳業の集合体として活動を続ける当連合会は、創立30年以上経過する中で酪農乳業や社会環境は大きく変化を遂げましたが、温故知新の精神を尊び先輩たちの礎を学びつつ、これからの地域乳業のあるべき姿を模索しながら、地域になくてはならない乳業経営者として自らの役割を全うして参りたいと考えます。

今後とも本会の活動にご理解とご協力並びにご支援を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方のより一層のご発展ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

# ごあいさつ

農林水産省 畜産局  
牛乳乳製品課長 須永 新平



明けましておめでとうございます。

令和6年という新しい年を迎えるにあたり、御挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、平素から酪農乳業行政の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年のロシアによるウクライナ侵攻等による国際情勢の不安定化や円安の進行等は、我が国の国民生活には物価の高騰、とりわけ酪農業には飼料、燃料、肥料などの各種生産資材の高騰という形で、影響を与えていると認識しております。一方、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して以降、外国人観光客の回帰によるインバウンド需要の回復や、国内旅行の増加により、消費面では明るい動きも見えてきた年でした。

酪農乳業界では、一昨年から4回に渡り、飲用向け、乳製品向け乳価の引上げが実現されてきました。こうした中、生乳需給は、ヨーグルト需要の低迷や製品価格の値上げの影響もあり、脱脂粉乳を中心に緩和傾向で推移しています。令和5年10月末時点では、これまでの在庫低減対策の効果もあって、脱脂粉乳の在庫は適正水準となっておりますが、何ら対策を講じなければ在庫が積み上がってしまう状況は変わっておらず、生乳需給と酪農経営改善の足かせとなっております。

こうした状況を踏まえ、農林水産省としては、脱脂粉乳在庫対策を継続するとともに、生乳需要の基盤として、国産チーズの競争力強化対策や輸出拡大に向けた支援策を措置したところ です。

あわせて、畜産物関連対策については、脱脂粉乳・バターの需要の不均衡を改善するため

**「年頭メッセージ」----- 酪農乳業行政への格別のご理解とご支援をお願い致します**

の取組や物流 2024 問題への対応のための取組を後押しする支援を措置することとしました。

牛乳乳製品の消費拡大については、SNS 等を通じた消費者に対する理解醸成や、主要空港での牛乳の試飲、牛乳の割引販売などの訪日外国人観光客や子ども食堂等への消費拡大対策を行うとともに、官民の幅広いメンバーが連携する「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げ、メンバー同士のコラボレーションによるキャンペーンや商品開発の促進等の取組を進めております。

引き続き、農林水産省においても業界の皆様とともにこれらの取組を適切に実施し、今後の需給の安定に努めてまいります。

国産牛乳乳製品の需要の拡大という点において、少子高齢化等により国内の食のマーケットの縮小が見込まれる中、成長が期待される海外市場を積極的に開拓していくことは極めて重要と考えております。

政府においては、農林水産物・食品について、2025 年までに 2 兆円、2030 年までに 5 兆円の輸出額目標を設定しており、重点品目に位置づけられる牛乳乳製品については 2030 年目標を 720 億円と設定しています。これまで牛乳乳製品の輸出額は堅調に増加を続け、令和 4 年には 319 億円と過去最高額を更新しました。令和 5 年についても、10 月時点で昨年同期の額を上回る 262 億円となっております。

農林水産省では引き続き輸出目標の達成に向け、オールジャパンでのプロモーション等の取組や、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」による一貫した輸出促進の支援、輸出先国が求める水準を満たす乳業施設の整備への支援等を通じ、更なる輸出拡大を推進してまいります。

我が国社会経済の変化の中、酪農乳業にもこれまでにない対応が求められる状況となっておりますが、昨年にも増して、酪農乳業行政への格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

# 「第194回理事会」の内容

1. 開催日時 2023年10月19日12時30分

2. 開催場所 KKRホテル東京「平安の間」

## (1)長谷川会長挨拶

- 需給は、8月の生乳生産量が5.9%減、一方、牛乳消費は乳価値上げによる商品価格の改定牛乳で、一時的には僅かだった消費の減退がここに来て6.2%減少との報道もある。乳製品在庫の問題もあり、マクロ的には厳しい状況が続いており、都府県の酪農も廃業が相次いで力が落ちてきている。コスト面でも、円安や中東の原油高も話が出ており、先が見通せない状況だ。
- 政府は飲用乳価を検討するため、「適正な価格形成に関する協議会」を2回開催した。この中で品目毎にワーキンググループを立ち上げ議論するとしており、その一つが「飲用牛乳」で、その価格適正化について、生産者・乳業者・流通業者・消費者・学者含めて協議が始まる。

## (2)来賓挨拶（農林水産省牛乳乳製品課・中村課長補佐）

- 牛乳を巡る情勢について、この1年の間に近年に無い乳価の改定が行われ、昨年11月、今年4月8月と値上げ改定された。1年の中で複数回値上げという異例の年であった。牛乳等の値上げにより需要が減少し生乳需給の大幅緩和を懸念したが、猛暑により生乳生産が大幅に減少したため生乳需給の緩和は避けられた。牛乳の値上げにより、商品構成が変化していると言われており、小容量製品や低脂肪乳等の価格の低い商品が増えている。価格の期中改定は学乳についても重要な課題であり、通常であれば学乳も価格転嫁を行うが、期中改定という特殊事情のため全都道府県が一律に学乳の供給価格の期中改定に対応出来た訳ではなく、乳価値上げ部分を価格転嫁できていない地域もある。また、今後、需給が逼迫した時、学乳供給面でどの様な対応が出来るか、乳業連合として組合員間の相互協力で何か出来ないか、皆様と対策等を考えていきたい。
- 酪農生産者において猛暑の影響もあるが、飼料価格の高騰も大きく影響している。廃業数が大幅に増えてきているが、牛の頭数は比較して大きくは減少していない。脱脂粉乳の在庫が積み増しの問題もあり、生乳の過剰生産部分があるため生産抑制が必要で、低能力牛の早期更新を図り将来の生乳を確保するため、工夫をしている。また、酪農生産者の手取りの問題もあり、農水省として、「適正な価格形成に関する協議会」を開催し、飲用牛乳等の品目別にワーキンググループを設置して専門的に議論し、価格転嫁に向けての課題整理と対応について検討する。飲用牛乳のワー

キンググループが明日開催されるが、この会議の構成員として、長谷川会長も含まれている。

- 学乳供給事業で、日々、ご苦労されていると思うが、子供たちの健全なる成長を促す大事な栄養源であり、学乳を供給することは保護者の切なる願いであることを理解して、更なる尽力をお願いしたい。

### 3. 議事の経過の要領及びその結果

#### ① 2023 年度上期の主な事業経過及び収支実績報告について

- 資料「2023 年度上期の主な事業経過について」に基づき説明。
- 2023 年 8 月からの乳価期中改定において、学乳供給価格の改定について情報収集を行い、J ミルク学乳問題特別委員会で厳しい状況を説明した。J ミルクとして学乳向け乳価の改定による供給価格の改定が必要との事から、6 月 1 日付けで、農水省へ「学乳供給価格の期中改定」に向けた要請文書を発出、農水省は 6 月 19 日に都道府県畜産主務課に「競争原理に基づく適正な供給価格を決定すること」との文書を発出した。
- ブロック会議で議論された「物流の 2024 年問題」について、「物流の G X」及び「物流の D X」を説明し、本理事会後の研修総懇談会で「物流の D X」である学乳の受発注システムの実績のある 3 社からプレゼンを受けることとした。

#### ② 定款の変更の認可について

- 資料「定款変更の認可」に基づき説明。
- 2023 年 5 月 25 日開催の総会で議決された定款変更について、5 月 30 日農林水産省へ申請し、6 月 22 日に申請通り認可された。本理事会へ報告後、各会員へ案内することとした。

#### ③ 飲用向け乳価改定に伴う学乳供給価格の期中改定アンケート結果について

- 資料「飲用向け乳価改定に伴う学乳供給価格の期中改定アンケート結果」に基づき説明。

#### ④ その他 報告事項

- 資料「学校給食無償化の情勢及び学乳選択制の現状について」「2023 年～2024 年度会議等開催日程について」に基づき説明。
- 最近の無償化報道の取り纏めを説明した。また、学乳選択制の現状について、多摩市の事例、神戸市中学給食開始に向けたアンケート結果を説明した。
- 2024 年 1 月 15 日開催予定の「今後の学校給食用牛乳供給事業に関する勉強会」は貴重な機会なので役員以外も出席出来るよう変更する。週明けに変更版を送付する。

### 4. 議事の経過の要領及びその結果

- 各審議事項に対する質疑応答を経て、提出議案は可決承認された。

# 『2023年度研修・総懇談会』開催

開催日：2023年10月19日(木)

(東京都千代田区・KKRホテル東京10階「瑞宝の間」)



『2023年度研修・総懇談会』における主催者・参画者のさわやかな出席表情)

2023年10月19日午後2時20分から東京・竹橋の“KKRホテル東京・10階「瑞宝の間」、において『2023年度研修・総懇談会』を開催した。同研修・総懇談会は長谷川 敏会長が主催者を代表して挨拶（別掲内容）した後、「研修会」を導いた。

「研修会」は、『学乳受発注システム』について次の3社・担当者によるプレゼンテーションと導入実績発表、そして質疑応答が行われ、同システム導入への道しるべとなる研修会を終了した。

『学乳受発注システム』について説明された3社⇒(1)株式会社アクロスソリューションズ (2)アルファシステム株式会社 (3)東京コンピューターサービス株式会社

## 『2023年度研修・総懇談会』開催概要 恒例の研修・学びと会員交流により 中小乳業の経営に明るい方向を見出す!!

全国乳業協同組合連合会では10月19日午後2時20分から恒例の研修・学びと会員交流の『2023年度研修・総懇談会』を開催した。

「研修会」に先がけて、長谷川 敏会長は、「牛乳を取り巻く価格環境は大変厳しい」と前置きしたあと、(1)1年に2回の価格改定を余儀なくされる異常な原材料（生乳を含む）価格の高騰は、いまだ解消されていない (2)このような不安定な市況の中で原乳の過剰問題があり、

(3)年度「期中」における「学乳価格改定」への制度上での難しさが浮き彫りされる一方で、(4)学校給食費の無償化問題などの提起 (5)そして、物流2024問題と人手不足など、とどまるどころを知らない難問題に、私ども中小乳業はどう対応していけばよいのか、エリアを代表する皆様と一緒に真剣に考えて参りたい、と挨拶し、研修を導いた。

「研修会」は、「学乳受発注システム」について別記の3企業担当者から、既にシステムを導入実施の「乳業企業事例」をまじえた説明が行われ、また、真剣な「質疑」の中に、時代を拓いていくシステム採用への道しるべとされた。

「懇親会」は、大野 保副会長の開宴挨拶でその幕が開かれた。

来賓として農林水産省の中村輝実牛乳乳製品課長補佐から、(1)生乳の減産への努力効果のもとでインバウンド&外食需要も徐々に回復し、市場展望に光がさす方向にある (2)一方、飼料価格等の高騰と円安等による牛乳等の価格改定要因は解消されず、今後の価格動静は不透明 (3)従って、学乳の安定的な供給体制をいかに堅持していくかという大きな課題も残されている、と行政サイドから正直な見解が披露され、一層の奮起を促した。

乾杯は中田俊之副会長の手で高々に宣され、和やかな対話交流の場となり、乳業経営の「明日」への展望が熱く語られる中で余韻を残しながら、吉澤文治郎副会長の中締めで閉宴とされた。





「学乳受発注システム」についての3社代表によるプレゼンテーション表情



「学乳受発注システム」の導入実績を紹介された石川県牛乳事業協同組合、神奈川県牛乳事業協同組合の代表者「説明、表情」

アルファシステムズ株式会社 <http://www.s-asc.co.jp>  
 (関連企業：株静岡情報処理センター <https://www.sicis.co.jp>)

**【所在地】**

静岡県静岡市葵区紺屋町12番地6 (シャンソンビル紺屋町)

**【設立年月日】**

1972年6月 (昭和47年)

**【担当者・連絡先】**

代表電話：054-271-7565

営業担当：賤機 (シズハタ) 孝

システム担当：鈴木孝之、石垣勇冨



「懇親会」は川崎 浩専務の司会で進行、大野 保副会長の主催者挨拶のあと、農林水産省牛乳乳製品課 中村輝実課長補佐の来賓挨拶とつづき、中田俊之副会長の乾杯音頭により「懇親の幕、が開かれ、対話交流が繰り広げられた。

**【学乳受注システム概要】**

(1)システム名：「学校給食Webシステム」

(2)導入実績

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| ①静岡県学校給食パン米飯協同組合（ファースト導入）  | 2017年4月稼働 |
| ②滋賀県学校給食協同組合（Web受注システム化）   | 2019年4月稼働 |
| ③神奈川県パン・米飯協同組合             | 2021年4月稼働 |
| ④千葉県学校給食パン・米飯協同組合          | 2022年4月稼働 |
| ⑤群馬県パン協同組合                 | 2023年4月稼働 |
| ⑥神奈川県牛乳事業協同組合（牛乳組合ファースト導入） | 2023年4月稼働 |

**株 式 会 社 ア ク ロ ス ソ リ ュ ー シ ョ ン ズ**

**【所在地】**

- |           |                 |                     |
|-----------|-----------------|---------------------|
| 〒920-0022 | 石川県金沢市北安江3丁目6-6 | メッセヤスタ1F／2F         |
| 〒102-0083 | 東京都千代田区麴町2-5-1  | 半蔵門 PREX South      |
| 〒530-0017 | 大阪府大阪市北区角田町8-1  | 大阪梅田ツインタワーズ・ノース 23F |

**【設立年月日】**

2006年5月23日

**【担当者・連絡先】**

高橋 裕紀夫  
 携帯電話：090-9447-6684  
 メールアドレス：y-takahashi@acrossjapan.co.jp

**【学乳受注システム概要】**

(1)システム名：MOS（モス）



(「研修会」で学んだあとの対話の会員交流に中小乳業の明るい展望をさぐる)

## 東京コンピュータサービス株式会社

**【所在地】**

東京都中央区日本橋4-8-14 東京建物第3室町ビル

**【設立年月日】**

1974年9月9日

**【担当者・連絡先】**

宇都宮支店 営業部 営業課 菅野 大  
電 話：028-634-0321

**【学乳受注システム概要】**

**(1)システム名：ToSweb (トスウェブ)**

※現在案内しているサービスは、個別乳業メーカー向けとなっております。

県単位の事業協同組合向けとして、複数乳業メーカーが共同利用できるプランを準備中です。



（「懇親会」は余韻を残して、吉澤文治郎副会長の中締めで閉宴とされた）

## (2)導入実績

2件（2023年7月31日時点）

## (3)特長

### 学乳事業向け Web 受注システム

#### ①受発注方法を Web で一本化

- Web システムでの受発注方法を統合することで、メールや FAX、電話でのやり取りから解放されます。
- 発注担当者は、一括入力や日別入力など複数の方法から選択し、柔軟に注文できます。
- 受注担当者は、リアルタイムで注文情報を確認し、基幹システムとのデータ連携は手入力や転記ミスの問題がなくなります。

#### ②受注情報一元化による見える化

すべての注文情報は Web システムで管理されるため、発注担当者と受注担当者はそれぞれの画面からリアルタイムで発注状況を共有することができます。

従来の聞き間違いなどによる注文数の認識齟齬がなくなり、不必要なクレームの削減が見込めます。

#### ③クラウドを利用した Web システム

お使いの PC ブラウザからアクセスするだけですぐに利用でき、メールや紙の注文書を紛失する懸念も無くなり、ペーパーレス化も実現します。

## (4)導入スケジュール

標準導入期間：2カ月

※カスタマイズが必要な場合、内容に応じて導入期間をいただきます。

## 【その他】

本システムは、乳業メーカー監修のもと学乳事業向けに開発されたシステムであり、誰でも使いやすいシンプルな機能構成となっております。

また、要望に応じた柔軟なカスタマイズなど機能拡張にも対応可能です。

## 全国乳業協同組合連合会が “第2回「次世代セミナー」、開催し、中小乳業の経営を考える!!



(主催者挨拶の中田俊之副会長、出席会員と乳業連合会事務局の参画表情)

全国乳業協同組合連合会では9月28日・29日の2日間に亘り、東京・竹橋の“KKR ホテル東京、において、『第2回「次世代セミナー』(会員20名中、16名が参加)を開催し、「地域乳業と牛乳・乳製品の消費拡大の取組み」のテーマを深掘りした学習で乳業企業経営への一助とした。

### 【開催概要】

◎開催の目的…地域乳業が価値訴求経営を志向しつつ全国展開する大手乳業との差別化を図るため、酪農乳業を取巻く情勢認識の共有を図るとともに地域乳業が目指すべき「姿・役割」を啓発し、併せてその実現に向けた関係者間のネットワーク作りを通じその後継者を育成する。

本セミナーは、Jミルク「国産牛乳乳製品高付加価値化事業」を活用し、Jミルクと乳業連合との共同事業として運営する。

### (1)開 会：オリエンテーション (9月28日)

- 座長挨拶：全国乳業協同組合連合会 副会長 中田 俊之氏

### (2)講演①／「生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと需要拡大の必要性について」

講師：一般社団法人Jミルク 生産流通グループ次長 関 芳和氏

### (3)講演②／「牛乳の消費拡大に向けたJミルクの役割と活動紹介」



(講演者の表情⇒写真左から関 芳和氏、林 雅典氏、川島有子氏の皆さん)

講師：一般社団法人Jミルク 事務局次長 林 雅典氏

**(4)講演③／「牛乳でスマイルプロジェクト」について**

講師：農林水産省牛乳乳製品課 課長補佐（貿易班） 川島 有子氏

**(5)交流会：会員の交流・懇談**

**(6)グループ討議（9月29日）**

3チームに分かれてのKJ法等による講演の受けとめの深掘り

**講演の骨子**

**【関 芳和 次長】**

- 飼料価格高騰等に伴う乳価と牛乳価格の値上げ改定で販売量が減少するなど、この数年の急激な需給変化により生乳生産抑制が必要な状況となった。このため乳牛頭数が北海道・都府県共に大幅に減少し、2～3年後の生乳生産減少が懸念される。
- 予測不能な社会情勢変化に対する需要拡大の必要性、及び地域間需給調整や乳製品在庫対応に対する酪農乳業の共通認識が必要だ。
- Jミルクは乳業連合会員と関連が深い事業を実施しており、今後ともJミルク事業へのご理解・ご協力をお願いします。

**【林 雅典 事務局次長】**

- Jミルクでは「牛乳でスマイルプロジェクト」開始以来、牛乳の消費拡大を長期的・継続的な取り組みと位置付けており、酪農乳業産業への理解・共感の高揚や新たな価値創造等の活動は、官民挙げて業界内外が連携・交流した活動に広がっている。
- 学乳供給のない日の子供達のカルシウム摂取量不足という生活課題に着目し、家庭での牛乳飲用習慣をつける消費喚起策として「土日ミルク」の活動を推進している。
- Jミルクでは、子供が楽しみながら飲用促進出来るよう提案しており、ご出席各位もSNSや消費者向けイベントを活用して情報発信・拡散をお願いしたい。



(9月29日の「グループワークの発表会」では講演受止めの深掘り討議で盛り上がった)


**【川島 有子 課長補佐】**

●「牛乳でスマイルプロジェクト」は、牛乳乳製品の消費拡大を目的に牛乳乳製品や酪農に対する理解・共感を目指し2022年6月に立ち上げられた。業界関係者ばかりでなく様々な企業・団体から参加いただき、共通のロゴ使用により一体感を持って活動している。参加はJミルクHPから簡単な申込みによりメンバー登録でき、参加料は無料だ。

**牛乳でスマイルプロジェクトの概要**

- 農林水産省と(一社)Jミルクは、牛乳乳製品の消費を拡大するため、2022年6月に「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げました。
- 本プロジェクトでは、企業・団体・自治体など官民から幅広い参加者(メンバー)を得て、
  - ① 各メンバーが独自に販促・PR活動を行うことや、
  - ② メンバー同士が新たに共同でキャンペーン等を行うことを促すことで、消費拡大の輪を広げていきます。
- また、牛乳乳製品が国民の健康的な食生活を支えていることや、酪農が地域の資源循環に貢献していることなどについて、メンバーに伝え、共感してもらうことで、メンバー自身による情報発信が行われることを目指します。

○ 共通ロゴマーク



牛乳乳製品を食事に取り入れることで、笑顔になってほしいというメッセージを込めました


○ 連携した取組のイメージ

- ✓ 乳業 × レシピサイト
- ✓ 乳業 × 温泉・銭湯・サウナ
- ✓ 小売 × 食品メーカー等

○ 活動目的、内容

- ✓ 牛乳乳製品を通じた国民の健康的な食生活への貢献、我が国における牛乳乳製品の安定供給を目的に活動
- ✓ 農水省からの情報提供や、参加企業等の交流を目的とした会議を不定期に開催


酪農や牛乳乳製品にまつわる動画をBUZZMAFFで配信!



○ メンバーに登録すると?

- ✓ 共通ロゴマークを無料で使えます。
- ✓ 農水省ウェブサイトでメンバーとして紹介します。(次ページをご覧ください)

○ 登録はこちら



問合せ先(事務局):  
農林水産省牛乳乳製品課  
gyunyu\_syouhi@maff.go.jp



（写真1段左から「交流会」で乾杯音頭の新札幌乳業 中澤卓司取締役管理部長、閉会挨拶の大石乳業 大石 光社長、2段・3段・4段は会場を盛り上げた交流表情）

- メンバー登録により、①共通ロゴマークの無料使用（名刺・ウェブサイト・販促グッズなどに幅広く使用可）、②農水省ウェブサイトでのメンバー紹介、が行われる。メンバーの義務的な活動は無く、(1)メンバー間のコラボ、(2)商品販促活動やプレゼント企画、(3)普及・啓発などの活動が行われている。
- 農水省では、様々な講演の機会に生乳需給や牛乳乳製品需給の課題を説明し、啓発に努めている。

### グループワークの概要

- 参加者が3つのグループに分かれ、各講演を聞いて考えた事や意見・対策等についてKJ法を用いたグループワークを行い発表し、講演受止めの深掘りを行った。
- 主なまとめとして、「消費拡大対策」「業界と在庫対策」「学乳と土日ミルク」「スマイルプロジェクト」「栄養素」「生乳需給と安定生産」などについて認識の共有を図った。



## 「21ミルク未来の会 第23回通常総会」開催



全国乳業協同組合連合会の有志で結成された「21ミルク未来の会」（会長：井尾行宏氏）は9月28日13時からKKRホテル東京「松の間」にて「2023年度（第23回）通常総会」を開催し、2022年度事業報告・収支決算、2023年度事業計画・収支予算（案）などを審議し、原案は全て承認可決された。

### 【2023年度事業計画の概要】

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症になり、食品の外食需要やインバウンド需要が回復基調にある。一方、酪農乳業界においては、昨年11月（飲用向け）以来の乳価改定が本年4月（加工向け）、本年8月（飲用向け）と継続しており、牛乳乳製品の需要減退が危惧される等、課題が山積している。

このような状況の中、21ミルク未来の会の使命である会員相互の協力や情報交換の活動を可能な限り行っていく。

#### 1. 情報の共有化及び連帯強化事業

役員会、研修会、現地研修会及び乳業連合の諸会合を通じて生乳需給状況や学乳の話題、新製品情報、事故防止の対応策等の情報を収集し共有を促進する。

#### 2. 学校給食用牛乳供給事業等に関する支援事業

学乳の供給価格、生乳価格等の情報交換を行い、更には、乳業連合会の将来に向けた展望について、意見交換を行い、必要に応じて乳業連合会に提言する。

### 【21ミルク未来の会・研修会】

総会終了後、研修会として「地域乳業と牛乳・乳製品の消費拡大の取組み」をテーマにした、第2回次世代セミナーの講演会に参加した。

# 「21ミルク未来の会 現地研修会」 12月14～15日 雪印メグミルク京都工場見学



12月14～15日に京都府で雪印メグミルク京都工場見学を中心とした現地研修会を開催した。年末ということもあり参加人数は7名であった。



## 【行 程】

- 12月14日  
京都駅集合～東寺～伏見稲荷大社～黄桜伏見蔵～夕食
- 12月15日  
ホテル～雪印メグミルク京都工場～京都駅解散

## 【雪印メグミルク京都工場】

21ミルク未来の会としては、初めて大手乳業工場を見学した。工場長をはじめとした幹部から、コスト改善を中心に説明を受けた。調合工程における工夫や殺菌部の熱エネルギーロスの低減の取組み、従業員とのコミュニケーション向上のためのトラブル日報のデジタル化、ユーティリティー各種設備のコストダウンなどを紹介された。改善提案制度が定着し、様々な創意工夫を具現化していると感じ、参加者の興味や質問等、活発な意見交換を行った。

## 2024年1月以降の全国乳業協同組合連合会「会議等」開催予定

開催日	会場	乳業連合	中小乳業学乳推進協議会 (中小学乳推進協)
1月15日(月)	KKR ホテル東京	今後の学校給食用牛乳供給事業に関する勉強会	
3月14日(木)	アルカディア市ヶ谷	第 195 回理事会 【事業実施状況、決算見込み、その他】	
4 月	乳業連合・事務所	監事監査 【2023 年度決算監査】	監事監査
4 月	乳業連合・事務所 (書面開催)	推薦会議（第 35 回通常総会選任に係る役員候補者の決定）	
5 月上旬	乳業連合・事務所 (書面開催)	第 196 回理事会 【総会開催、事業報告・決算、事業計画予算】	第 1 回理事会
5月23日(木)	KKR ホテル東京	第 197 回理事会 【総会提出議案、その他】	第 2 回理事会
		第 35 回通常総会 【事業報告・決算、事業計画・予算、その他】	第 18 回総会
		第 198 回理事会 【役付き理事の互選】	第 3 回理事会 役付き理事の互選】
7 月～ 9 月	全国 7 会場	ブロック会議 【事業計画・予算、意見交換、その他】	
10月17日(木)	KKR ホテル東京	第 199 回理事会 【事業推進状況報告、その他】	



### 全国乳業協同組合連合会 「機関誌」『乳業連合 News・No.121』

発行日 2024年1月15日  
 編集・発行 全国乳業協同組合連合会 川崎 浩  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10(和田ビル4階)  
 ☎03(5577)7080代 FAX 03(5577)7081  
 ホームページ：<http://jf-milk.or.jp/>